

第5章 学生の受け入れ

(1) 現状説明

点検・評価項目①：学生の受け入れ方針を定め、公表しているか。

評価の視点1：学位授与方針及び教育課程の編成・実施方針を踏まえた学生の受け入れ方針の適切な設定及び公表

評価の視点2：下記内容を踏まえた学生の受け入れ方針の設定

- ・入学前の学習歴、学力水準、能力等の求める学生像
- ・入学希望者に求める水準等の判定方法

本学は、学位授与分野である工学・理学・情報学分野における科学技術に興味を持ち、志望する各学部の学科・学系の教育方針、カリキュラム、研究内容や求める学生像を十分理解し、本学の教育・研究理念である「技術は人なり」の精神のもと、卒業後に自立した科学技術者として、社会へ貢献できる学生を求めている。これらは大学としての入学者受け入れの方針として定め、本学ウェブサイトや各入学者選抜要項で公表している。

さらに、本学は「学力の3要素（①知識・技能、②思考力・判断力・表現力等の能力、③主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度）」を総合的・多面的に評価する多種多様な入学者選抜を実施している。さらに、各入学者選抜種別の評価方法についても明示し、本学ウェブサイトや各入学者選抜要項で同様に公表している。

各学部・学科等の入学者受け入れの方針は、大学全体の同方針に基づき、具体的な「求める学生像」と「入学前に学習しておくことが望ましい内容」について、「教育改善推進室運営委員会」「入試センター運営委員会」、各学部入試広報委員会、各学部運営委員会および各学部教授会での審議を経て、「大学評議会」での決裁をもって学長が決定し、方針を定めている。また、各学部・学科等の入学者受け入れの方針は、本学ウェブサイトや各入学者選抜要項を通じて公表している。

大学院の入学者受け入れの方針については、建学の精神、教育・研究理念および使命に基づき、自立した研究者として問題解決能力を有する人材を求めることに加え、具体的な入試制度について明示している。

各研究科・専攻の入学者受け入れの方針は、大学院全体の同方針に基づき、各専攻の専門分野に応じた求める能力と人材像について、「教育改善推進室運営委員会」「入試センター運営委員会」、各研究科運営委員会および各研究科委員会での審議を経て、「大学評議会」での決裁をもって学長が決定し、方針を定めている。大学院全体および各研究科・専攻の入学者受け入れの方針は、本学ウェブサイトや各入試要項を通じて公表している。

点検・評価項目②：学生の受け入れ方針に基づき、学生募集及び入学者選抜の制度や体制を適切に整備し、入学者選抜を公正に実施しているか。

<p>評価の視点 1：学生の受け入れ方針に基づく学生募集方法及び入学者選抜制度の適切な設定</p> <p>評価の視点 2：授業その他の費用や経済的支援に関する情報提供</p> <p>評価の視点 3：入試委員会等、責任所在を明確にした入学者選抜実施のための体制の適切な整備</p> <p>評価の視点 4：公正な入学者選抜の実施</p> <p>評価の視点 5：入学を希望する者への合理的な配慮に基づく公平な入学者選抜の実施</p>
--

＜学生の受け入れ方針に基づく学生募集方法及び入学者選抜制度の適切な設定＞

本学では入学者受け入れの方針に基づき、各学部において、以下のように多様な学生募集方法を設けている。

1. 大学入学共通テスト利用選抜

システムデザイン工学部、未来科学部、工学部、理工学部は、本学独自の試験は行わずに大学入学共通テストの得点のみを利用して選抜を行っている。選抜日程については、大学入学共通テストの受験前に出願を行う前期日程と、同テスト受験後に出願を行う後期日程と2つの日程を設けて実施している。

また、3教科方式（数学、外国語（英語）、理科）および4教科方式（数学、外国語（英語）、理科、国語）の2つの選抜方式（併願可）を設け、いずれも合計600点満点として合否判定を行っている。

さらに、2021（令和3）年度入学者選抜より、システムデザイン工学部、未来科学部、工学部、理工学部において、日本国籍以外を有する外国籍の者を出願対象として、本学独自の試験は行わずに大学入学共通テストの得点のみを利用して選抜する「大学入学共通テスト利用選抜（外国人特別）」を新たな選抜方法として設けている。なお、選抜方式については3教科500満点（数学、外国語（英語）、理科）とし、合否判定を行っている。

工学部第二部は、他の学部と同様に本学独自の試験は行わずに大学入学共通テストの得点のみを利用して選抜を行っている。なお、選抜方式については4教科400満点（数学、外国語（英語）、理科、国語）とし、合否判定を行っている。

2. 一般選抜

2021（令和3）年度入学者選抜では、新型コロナウイルス感染症感染拡大に伴い、学習面や生活面で大きな影響を受けている受験生が、安全・安心に受験できるように感染症対策に加えて、一般選抜の各選抜において追試日程（1日）を設定し実施した。

2-1 一般選抜（前期）

システムデザイン工学部、未来科学部、工学部、理工学部は、数学（必須）、理科または国語（選択）、英語（必須）の3科目合計300点満点で合否判定を行っている。

さらに、当該選抜では、数学1科目の素点が100点満点であった場合に合格とする「数

学満点選抜方式」(3科目受験は必須)を導入している。

また、試験問題については、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」を評価するため、自らの考えを立論し、それを表現するなどの記述式問題を含め出題している。

試験会場については、本学キャンパス会場(東京千住キャンパス会場、埼玉鳩山キャンパス会場)の他に全国にサテライト15会場を設けて実施している。

2-2 一般選抜(英語外部試験利用)

2019(平成31)年度入試より、システムデザイン工学部、未来科学部、工学部、理工学部は、本学が指定した英語外部試験のスコアまたは基準値を出願資格として、英語科目の試験を免除する「一般選抜(英語外部試験利用)」を実施している。

「一般選抜(英語外部試験利用)」は、「一般選抜(前期)」と同日程で実施しているため、併願を可能としている。

「一般選抜(英語外部試験利用)」は、数学(必須)、理科または国語(選択)の2科目合計200点満点で合否判定を行っているが、「一般選抜(前期)」と併願した場合には3科目受験を必須としている。

また、当該選抜は、「一般選抜(前期)」と同様に「数学満点選抜方式」を導入し、試験問題については、記述式問題を含め出題している。

試験会場は、本学キャンパス会場の他に全国にサテライト15会場を設けて実施している。

2-3 一般選抜(後期)

システムデザイン工学部、未来科学部、工学部、理工学部は、数学(必須)、理科(選択)、英語(必須)の3科目合計300点満点で合否判定を行っている。

また、当該選抜は、「一般選抜(前期)」と同様に「数学満点選抜方式」を導入し、試験問題については、記述式問題を含め出題している。

試験会場は、本学キャンパス会場の他に全国サテライト7会場を設けて実施している。

2-4 一般選抜(工学部第二部)

工学部第二部は、数学(必須)、英語または物理(選択)の2科目合計200点満点で合否判定を行っている。

また、当該選抜は、「一般選抜(前期)」と同様に「数学満点選抜方式」を導入し、試験問題については、記述式問題を含め出題している。

試験会場は、東京千住キャンパス会場のみで実施している。

3. 学校推薦型選抜

3-1 学校推薦型選抜(指定校)

全学部で実施している。全国の高等学校(原則、全日制)より指定校を選定し、小論文および個別面接と書類審査によって総合的に合否を判定している。

なお、2021(令和3)年度入学者選抜では、新型コロナウイルス感染症対策の一環として、従来の対面式による個別面接をオンラインによる個別面接へ実施方法を変更した。これに伴い、小論文の実施についても、本学より事前に課題を提示して出願時に提出させて

評価を行う方法へ変更した。

3-2 学校推薦型選抜（公募）

全学部で実施している。各学部の出願資格を満たしている者について、筆記試験、個別面接、口頭試問および書類審査などを組合せ、学部の独自性を考慮した選考方法で可否を判定している。

なお、2021（令和3）年度入学者選抜では、筆記試験の実施は従前通りに受験生を来校させて行ったものの、個別面接については新型コロナウイルス感染症対策の一環として、オンラインによる個別面接としたため、学内に受験生用のオンライン面接用ブースを個別に設置して実施した。

4. 総合型選抜

4-1 総合型選抜（AO）

工学部第二部を除いた各学部で実施している。各学部の入学者受け入れの方針と出願資格を満たしている者について、第1次選考（書類審査）を実施し、その合格者を対象として第2次選考（個別面接およびプレゼンテーション等）を実施して、総合的に可否を判定している。

なお、当該選抜は、第2次選考において受験生がプレゼンテーションを行うことから、新型コロナウイルス感染症対策を十分に図りながら従前通りに対面式で実施した。

4-2 総合型選抜（はたらく学生）

総合型選抜（はたらく学生）は、2018（平成30）年度入試より工学部第二部のみで実施している。

当該選抜は、経済的な事情により大学進学に不安を抱えているものの、学ぶ意欲、働く意欲がある者を対象として、昼間は東京千住キャンパスの各学科の「学生職員」として働きながら、夜間部である工学部第二部で学ぶことができる入学者選抜制度（入学検定料は免除）である。

工学部第二部の入学者受け入れの方針と出願資格を満たしている者を対象として、第1次選考（書類審査）を実施し、その合格者を対象として第2次選考（小論文、数学、個別面接）を実施して、総合的に可否を判定している。

なお、2021（令和3）年度入学者選抜では、小論文および数学については従前通りに受験生を来校させて実施したものの、個別面接については新型コロナウイルス感染症対策の一環として、オンラインによる個別面接としたため、学内に受験生用のオンライン面接用ブースを個別に設置して実施した。

5. 特別選抜

5-1 特別選抜（社会人）

工学部第二部で同一年度内に2回（前期、後期）実施している。現在就職している勤務先の在職証明書を提出できる者、または就職が内定し、内定先の企業等の就職内定書を提出できる者を主たる出願資格としている。さらに、工学部第二部の入学者受け入れの方針

と出願資格を満たしている者について、小論文および個別面接、書類審査によって総合的に合否を判定している。

なお、2021（令和3）年度入学者選抜では、小論文については従前通りに受験生を来校させて実施したものの、個別面接については新型コロナウイルス感染症対策の一環として、オンラインによる個別面接としたため、学内に受験生用のオンライン面接用ブースを個別に設置して実施した。

5-2 特別選抜（社会人編入学）

前述の特別選抜（社会人）と同様に、工学部第二部で同一年度内に2回（前期、後期）実施している。現在就職している勤務先の在職証明書を提出できる者、または就職が内定し、内定先の企業等の就職内定書を提出できる者を主たる出願資格としている。さらに、工学部第二部の入学者受け入れの方針と出願資格を満たしている者について、筆記試験、個別面接、口頭試問および書類審査などを組合せ、学科によって異なる選考方法で合否を判定している。

なお、2021（令和3）年度入学者選抜では、筆記試験については従前通りに受験生を来校させて実施したものの、個別面接については新型コロナウイルス感染症対策の一環として、オンラインによる個別面接としたため、学内に受験生用のオンライン面接用ブースを個別に設置して実施した。

5-3 特別選抜（外国人）、特別選抜（外国政府派遣等留学生）

工学部第二部を除いた各学部で実施している。各学科等が定める出願資格を満たしている者について、個別面接、口頭試問（日本語能力および数学、理科の基礎学力）、日本留学試験の成績および提出書類により総合的に合否を判定している。

なお、2021（令和3）年度入学者選抜では、個別面接については新型コロナウイルス感染症対策の一環として、オンラインによる個別面接としたため、学内に受験生用のオンライン面接用ブースを個別に設置して実施した。

5-4 特別選抜（一般編入学）、特別選抜（指定校推薦編入学）

工学部第二部を除いた各学部で実施している。各学部とも2年次編入と3年次編入の2種類（未来科学部建築学科は2年次編入のみ）があり、筆記試験、個別面接および書類審査で総合的に合否を判定している。

なお、2021（令和3）年度入学者選抜では、筆記試験については従前通りに受験生を来校させて実施したものの、個別面接については新型コロナウイルス感染症対策の一環として、オンラインによる個別面接としたため、学内に受験生用のオンライン面接用ブースを個別に設置して実施した。

6. 大学院入試

大学院の学生募集は大別すると、学内からの推薦入試、一般入試、社会人入試、外国人特別入試の4つからなる。

大学院修士課程は、入試制度として、学内推薦入試、一般入試、社会人特別選抜入試、

外国人特別選抜入試、高専指定校推薦入試、「東京理工系大学による学術と教育の交流に関する協定」に基づく大学院特別推薦入試、早期卒業生入試を設けて実施している。

学内推薦入試は、各研究科共通（未来科学研究科建築学専攻を除く）で所属学科の成績上位者（GPAによる順位）を対象として実施している。可否については、面接試験の成績により判定している。

社会人に対しては、工学研究科の全専攻に3年制の「社会人コース」（修士課程2年分の学費を3年間で支払う）を設置しているほか、全研究科・全専攻において昼夜開講制を実施する等、勤務しながら学ぶ社会人に対して、計画的に修士の学位が取得できるように配慮している。

社会人入試における出願資格は、大学卒業後、入学時まで企業等での3年以上の実務経験を有する者としている。ただし、大学在学中に職業に就いていた者で、上記に相当する実務経験を有すると認められる者については、事前審査により出願資格の判定（大学卒業後の年数は問わない）を行っている。

大学院博士（後期）課程は、入試制度として、学内推薦入試、一般入試、社会人入試を設けて実施している。

6-1 一般入試、公募制推薦入試、社会人入試、外国人特別選抜入試

大学院修士課程であるシステムデザイン工学研究科、未来科学研究科、工学研究科、理工学研究科の一般入学試験は、外国語（英語）、専門科目、個別面接によって総合的に可否を判定している（専攻によって一部試験科目が異なる）。社会人入試、外国人特別選抜入試は、提出書類、個別面接によって可否を判定している。大学院博士（後期）課程である先端科学技術研究科は、個別面接と書類審査によって総合的に可否を判定している。

各研究科において実施している入試種別および募集時期については次のとおりとなる。

- a) 先端科学技術研究科（入学時期：当該年度9月、翌年度4月）
一般入試、社会人入試を行っている。
当該年度9月入学および翌年度4月入学の募集は5月上旬～5月下旬。
翌年度4月入学の募集は1月上旬～1月中旬。
- b) システムデザイン工学研究科（入学時期：翌年度4月）
一般入試、社会人入試、外国人特別選抜入試を行っている。
募集は8月下旬～9月上旬または1月上旬～1月中旬。
- c) 未来科学研究科（入学時期：当該年度9月、翌年度4月）
一般入試、社会人入試、外国人特別選抜入試を行っている。
当該年度9月入学および翌年度4月入学の募集は5月上旬～5月中旬。
翌年度4月入学の募集は1月上旬～1月中旬。
- d) 工学研究科（入学時期：翌年度4月）
一般入試、社会人入試、外国人特別選抜入試を行っている。
募集は8月下旬～9月上旬または1月上旬～1月中旬。
- e) 理工学研究科（入学時期：当該年度9月、翌年度4月）
一般入試、社会人入試、外国人特別選抜入試を行っている。
当該年度9月入学および翌年度4月入学の募集は6月上旬～6月下旬。

翌年度4月入学の募集は1月上旬～1月中旬。

6-2 学内推薦入試

6月と9月の年2回、全研究科で実施している。

<授業その他の費用や経済的支援に関する情報提供>

各入学者選抜要項や本学ウェブサイトに記載し、情報提供を行っている。

<入試委員会等、責任所在を明確にした入学者選抜実施のための体制の適切な整備>

入学者選抜の実実施計画概要、新たな選抜制度や入学者選抜の方針といった入学者選抜の実施や広報に関する事項については、入試センターが概要案を策定し、入試センター長を委員長とする「入試センター運営委員会」において審議を行っている。その後、各学部入試広報委員会、各学部運営委員会および各学部教授会において審議した後に、学長が招集し、その議長となる「大学評議会」において決定している。

また、入学者受け入れの方針に則った本学に相応しい入学者を確保するため、学長が招集し、その議長となる「学生確保対策会議」を通じて、合否判定の基本方針、合格者判定ガイドライン等を審議し決定している。決定した基本方針やガイドラインについては、各学部運営委員会および教授会にて共有している。さらに、合格者および不合格者を決定するための合否判定については、各学部運営委員会の審議を経て、各学部教授会で議決している。最終的な合否結果については、学長決裁を得たうえで、合格発表を行っている。

入学者選抜実施に係る管理運営体制、その職務範囲、権限および責任の所在を明確化することを目的として、2021（令和3）年度に「東京電機大学入学者選抜試験及び大学入学共通テスト実施に係る管理運営要項」を制定し、入学者選抜を実施している。入学者選抜を公正に実施し、その管理運営を適切に図るため、当該要項に則り「東京電機大学入学試験本部」を設置している。当該本部については、学長を入試本部長、副学長および学長室長を入試副本部長とする責任体制を構築し、入学者選抜の実施を管理監督している。

本学の入学者選抜および学生募集に係る業務を担う入試センターでは、学長の命を受け、入試センター長および入試センター副センター長を置いている。

入試センター長は、入学者確保と適切な入学者選抜の実施を使命とし、入学者選抜に係る問題点や課題の抽出、方針・施策の提案、大学および学部間への説明と調整を行っている。また、担当理事（入学者選抜担当1名、広報担当1名）とも様々な情報を共有し、大学のみならず本法人とも緊密に連携を図っている。

入試センター副センター長は、各学部より1名ずつ任命され（大学院各研究科の担当を兼ねる）、入試センター長と同じく入学者確保と適切な入学者選抜の実施を使命とし、入学者選抜全般に係る大学の方針を学部と共有するとともに、学部固有の理念や課題等を大学側と共有する相互の架け橋的な役割を担っている。特に、同副センター長は、年明けに実施する大学入学共通テスト利用選抜と一般選抜における各学部の合否判定ガイドライン案を入学者選抜の成績結果、過去の入学手続状況や歩留り率等を精査したうえで策定している。

大学院入試については、各研究科委員会および同運営委員会規程に基づき、入試実施に

係る入試種別、日程、実施、合否判定について各研究科運営委員会の審議を経て、各研究科委員会で議決している。最終的な合否結果については、学長決裁を得たうえで、合格発表を行っている。

<公正な入学者選抜の実施>

公正な入学者選抜の実施にあたり、主に12月までに実施する個別面接を伴う入学者選抜については、実施要領を作成し、業務全体に携わる全ての教職員に対して、各種入学者選抜の概要や実施業務の詳細等を事前に周知している。また、試験監督者に対しては、試験監督要領を別途作成し、試験監督業務の流れ、注意点、緊急時対応等について事前に周知している。さらに、個別面接については、当日の面接委員に対して、質問内容に関する注意や判定基準に関する内容を記した資料を作成し、実施前に周知している。

一方、年が明けた2月より実施する一般選抜については、試験実施に係る業務規模が大きく多岐に亘っていることに加え、教職員のみならず学外派遣スタッフ、アルバイト学生と様々な立場の者が大勢関与しているため、各種要領（①試験監督要領、②試験場本部要領、③試験場本部における注意事項とトラブル対策、④採点庶務業務要領、⑤誘導・警備業務要領）を作成し、業務内容の共有を実施前に図ることで事故の発生を抑制している。

公正な入学者選抜の実施を担保するため、受験生から成績開示請求があった場合には、一般選抜の不合格者を対象として、各受験科目の得点开示を行っている。

一般選抜に係る問題作成については、出題ミス等を未然に防ぐことを目的として、第三者機関による問題および解答の検証を試験実施前に行っている。その検証結果については、問題作成者と共有して確認等を行っている。

また、2021（令和3）年度入学者選抜については、新型コロナウイルス感染症対策として、学習面や生活面において大きな影響を受けている受験生が安心して受験できるよう、文部科学省発出（2021（令和3）年6月4日付）の「令和4年度大学入学者選抜実施要項」に定める「第14新型コロナウイルス感染症対策に伴う試験期日及び試験実施上の配慮等」に準じ、以下のような新型コロナウイルス感染症対策を図り実施した。

本学の対策や方針については、2020（令和2）年7月31日付で「2021（令和3）年度東京電機大学入学者選抜における新型コロナウイルス感染症対応について（お知らせ）」として、本学ウェブサイトを通じて公表した。

(1) 各試験場での衛生管理の徹底

- ・ 1教室あたりの試験定員を通常の50～80%に減じて実施
- ・ 消毒、速乾性アルコール製剤の配置
- ・ 換気
- ・ 入館時の検温、体調不良者への健康チェック

(2) オンラインによる個別面接の実施

- ・ 個別面接は、従前からの対面式による面接は取り止め、Zoomを利用したオンラインによる面接を実施
- ・ 個別面接をオンラインで実施することに伴い、学校推薦型選抜（指定校）では、これまで選考日当日に実施していた「小論文試験」を「予め本学が指定した課題への

回答を出願時に提出」させる方法へ変更して実施

- ・学校推薦型選抜（公募）のように、面接の他に筆記テストを実施する選抜については、受験生全員を従前通りに来校させて筆記テストを実施した後、学内に受験生用のオンライン面接用ブースを個別に設置して、オンラインで面接を実施
- ・オンライン面接の実施にあたり、「オンライン面接受験マニュアル」を作成し、志願者全員へ事前に配付
- ・志願者のインターネット環境や音声・映像の状況を確認するため、面接実施日の数日前には「事前接続テスト」を受験生個別に実施
- ・インターネット環境が整っていない受験生（※該当者12名）については、選考日当日に東京千住キャンパスへ来校させ、前述のオンライン面接用ブースよりオンラインで面接を実施
- ・オンライン面接中に通信トラブルが発生した場合の対策として、（ア）選考日に「面接予備時間」を別途設けて対応、（イ）それでも不具合が生じた場合は、翌日に「予備日」を設けて対応、（ウ）それでも不具合が生じた場合は、「追試験」にて対応といった3段階による対応を実施（※結果該当者は無し）
- ・全担当教員向けに「オンライン面接の実施マニュアル」を作成して事前に配付し、当日の具体的な実施手順を共有した上で実施

(3) 追試験の実施

- ・体調不良者が試験当日に無理な受験を行うことによる感染拡大を防止するため、本学では追試験の実施を決定し、前述の「2021（令和3）年度東京電機大学入学者選抜における新型コロナウイルス感染症対応について（お知らせ）」を通じてその旨を公表
- ・年内に実施する入学者選抜に対する追試験を「年内選抜（追試）」と呼称し、一般選抜に対する追試験を「一般選抜（追試）」と呼称して実施
- ・追試験を受験できる条件として、「本人および同居のご家族等の体調不良によりやむを得ず欠席した受験生」と設定
- ・追試験受験希望者は、指定された期間内にウェブサイト上で登録を行うのみとし、追試験受験料の納入不要、診断書や欠席理由書等の欠席を証明する書類の提出も不要とすることで、手続を簡素化
- ・「年内選抜（追試）」は、受験者5人を対象に2020（令和2）年12月26日（土）に実施（※合格者は内3人）
- ・「一般選抜（追試）」は、受験者19人を対象に2021（令和3）年3月15日（月）に実施（※合格者は内1人）

<入学を希望する者への合理的な配慮に基づく公平な入学者選抜の実施>

入学後の生活および受験に際しての特別配慮については、本学における特別支援（施設、設備、カリキュラムを含めたサポート体制等）の整備状況等の対応可能範囲が通学を希望するキャンパスと学科・学系により異なっている。このため、受験生が認識している入学後の対応との乖離を極力最小限に抑えるため、事前に入試センターが窓口となり、関係部

署と連携を図り、個別に対応を行っている。

なお、受験時においては、出願時のインターネット出願画面における特別配慮欄にチェックを付けて登録し、出願書類に加えて診断書等の必要書類を同封し郵送することにより、申請することができるようにしている。申請後は、入試センターが窓口となり、対象者へ特別配慮に関する内容の詳細を確認のうえ、当日の試験時の特別対応を決定している。

本件については、受験生に対して各種入学者選抜要項を通じてその旨を周知している。

点検・評価項目③：適切な定員を設定して学生の受け入れを行うとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理しているか。

評価の視点1：入学定員及び収容定員の適切な設定と在籍学生数の管理

- ・ 入学定員に対する入学者数比率（【学士】）
- ・ 編入学定員に対する編入学生数比率（【学士】）
- ・ 収容定員に対する在籍学生数比率
- ・ 収容定員に対する在籍学生数の過剰又は未充足に関する対応

本学は、大学設置基準、教員組織、施設・設備および入学者受け入れの方針等を考慮して入学定員並びに収容定員を設定し、入学者を受け入れている。本法人理事会において、過去4年間における入学定員超過率および収容定員超過率や、認証評価機関における評価の指針に示される入学定員超過率および収容定員超過率を考慮して次年度の入学目標人員数を設定し、「大学評議会」や各学部教授会等を通じて周知している。

各学部は、入学定員および収容定員確保に向け、理事会より示された入学目標人員数を念頭に置きながら、前述の入試センター副センター長が中心となって策定する合否判定ガイドライン案を基に、各学部教授会において各学科・学系の合格者数を審議している。審議結果については、最終的に学長が決裁したうえで合格発表を行っている。

しかし、入学手続の歩留率は、過去のデータを参照して傾向の分析を行っているものの、入学者選抜実施年度ごとに差異が生じてしまう。そのため、各学科・学系によって入学者数に不足が生じてしまう可能性がある場合に限り、該当学部長の判断および学長の決定を速やかに行ったうえで、追加合格を個別に発表し、適正な数の入学者を確保している。

なお、この追加合格に係る関係学部運営委員会等における承認手続きは、合格発表を迅速に行うことを優先し、学長決定後の追認として後日取り扱うこととしている。

2020（令和2）年5月1日現在における過去5年間の平均入学定員超過率は、システムデザイン工学部 1.11、未来科学部 1.09、工学部 1.10、理工学部 1.10、工学部第二部 1.12であった。また、同起算日における収容定員超過率については、システムデザイン工学部 1.09、未来科学部 1.15、工学部 1.12、理工学部 1.15、工学部第二部 1.13であり、各超過率ともに適正な水準を維持している。

修士課程の2020（令和2）年5月1日現在における過去5年間の平均入学定員超過率は、未来科学研究科 0.92、工学研究科 0.93、理工学研究科 0.89、情報環境学研究科 0.66であった。また、同起算日における過去4年間の収容定員超過率については、未来科学研究科 0.93、工学研究科 0.92、理工学研究科 0.91、情報環境学研究科 0.65であり、各研究科と

もに年度ごとに定員充足状況に差はあるものの、過去4年間を平均すると定員充足に満たない傾向である。

博士後期課程の2020（令和2）年5月1日現在における過去5年間の平均入学定員超過率は、0.34であった。また、同じ起算日における過去4年間の収容定員超過率については、0.45であり、修士課程同様に定員充足に満たない傾向である。

大学院では、一部の専攻においては入学定員を充足するところもあるが、全体では入学定員の未充足状態が続いている。そのため、今後も適切な入学定員設定の見直しや大学院進学に関する在学生への意識醸成といった対策の検討を継続する必要がある。

点検・評価項目④：学生の受け入れの適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。

評価の視点1：適切な根拠（資料、情報）に基づく定期的な点検・評価

評価の視点2：点検・評価結果に基づく改善・向上

入試センターでは、学生の受け入れの適切性について、当該年度に実施した入学者選抜結果に関する各種データや、学生募集広報活動に関する実績のデータを基にして、全体の結果や課題点等を「入学者選抜に係る結果報告と学生募集広報結果報告書」として毎年まとめて、「入試センター運営委員会」において審議した後、各学部教授会および「大学評議会」にて入試センター長より説明報告と意見聴取を行っている。

また、本学IRセンターとも協力し、入学者選抜種別ごとに入学後4年間のGPAによる成績、退学者数、退学率などのデータを利用して募集人員の妥当性の検証を行うほか、これまでの入学者選抜結果データ（志願者数、入学者数、志願者傾向、入学後の成績推移等）をまとめ、例えば各学部における次年度実施の学校推薦型選抜（指定校）における指定校推薦基準・条件や募集人員の適切性の検証用資料として各学部教授会へ提供し、同教授会にて基準等を決定している。

入試センターは、上述の意見聴取結果等や各種入学者選抜制度等に関連する様々な課題点や問題点を精査したうえで適宜、改善案や制度の見直し案を作成している。実行に至るまでの過程については、入試センター運営委員会において審議して成案をまとめた後、各学部教授会（または各研究科委員会）における審議を経て、「大学評議会」にて決定した上で実施している。

（2）長所・特色

2021（令和3）年度入学者選抜全体の志願者数については、18歳人口が減少する中、2017年度入試から続く志願者増加傾向を維持することができ、前年度比100.4%（126名増、30,756人）であった。さらに、この志願者数については、2020（令和2）年度入学者選抜に引き続いて30,000人を超える結果となった。

この結果については、2021（令和3）年度高大接続改革に伴う入試改革を念頭に置いて、2019（平成31）年度入試より「一般入試（英語外部試験利用）」（現名称：一般選抜（英語

外部試験利用))を新たに導入したことや、雑誌、インターネット広報、DM発送、高校訪問や各種説明会を通じたナーチャリング広報が実を結び、志願者増に繋がったものと考えられる。

特に、2021（令和3）年度入学者選抜においては、新型コロナウイルス感染症の影響により、高校訪問の中止、各種説明会、進学相談会およびオープンキャンパスを従前までの実施方法から変更することを余儀なくされたため、受験生のニーズにできる限り応える形で以下の通りに実施した。

(1) 電大YouTubeキャンパス

- ・受験生、高校生が普段から身近に使用しているYouTubeに本学の関連動画を60本程度作製
- ・“いつでも・どこでも・簡単に”時間を拘束されずに動画を視聴できる環境を整えたことにより、本学を知らない新規層に対しても認知を拡げることができた

(2) オンライン個別相談会

- ・Zoom、電話、メールによる個別相談会を実施
- ・12時00分～18時45分までの時間帯で、1回45分の枠を6枠設けて、相談に対応

(3) 入試Q&A特設サイト

- ・受験生からの入学者選抜に関する質問と回答をまとめた「入試Q&A特設サイト」を開設
- ・受験生自身が疑問に思ったことを自己解決しやすくなり、オンライン個別相談会の混雑抑止にも一定の効果があった

(3) 問題点

大学院修士課程および博士後期課程における入学定員の充足に課題があるため、学部学生を対象に大学院進学も視野に入れたキャリアプランを早期の段階から提示することや、より効果的な大学院入試日程、入試制度の在り方や奨学援助等による大学院進学意識の醸成と経済的支援策の拡充に向けた早期の検討を行う必要がある。

大学全体の入学定員並びに収容定員の管理については、その根拠となるデータ集計作業が特定の部署に一本化されていない現状がある。そのため、当該データを必要とする部署が各自で資料を作成・所有しており、大学全体での情報管理体制の一元化についても併せて検討を行う必要がある。

(4) 全体のまとめ

本学は、建学の精神「実学尊重」、教育・研究理念「技術は人なり」、さらに「科学技術で社会に貢献する人材の育成」を使命として、各学部・各研究科の入学者受け入れの方針に即して入試実施を行っている。

学生募集広報については、本学ウェブサイト、大学案内、入学者選抜要項、高校訪問や各種説明会等を通じて広く公開して周知を行っている。さらに、本学では入学者選抜実施や学生募集活動に対して多くの教職員と在学生が携わっており、未来の入学者を迎えるた

めに全学が一体となって取り組んでいる。

大学院における入学定員未充足や、2022（令和4）年度からの高校学習指導要領改正による2025（令和7）年度入学者選抜対応等に係る具体的な対応策を策定し、学内で検討を進めていく。